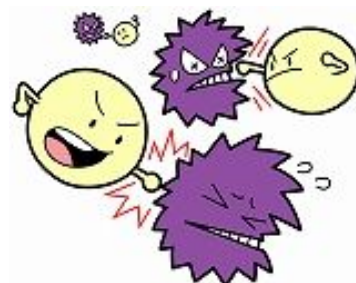


冬にかかりやすい子どもの感染症

冬は気温が低く空気が乾燥しています。ウイルスはこのような環境を好むのでウイルスによる風邪や胃腸炎が流行します。以下に流行しやすい病気を解説します。

インフルエンザ

一般的にインフルエンザは急な発熱で始まり、頭痛や関節痛などがありますが、乳幼児では、急激な発熱のために熱性けいれんをおこすことがあります。インフルエンザ脳症は乳幼児にみられる重い合併症で、インフルエンザの発病後、数時間のうちに何度もけいれんや意識障害がおきる場合があります。このような症状のある時にはすぐに医療機関を受診しましょう。

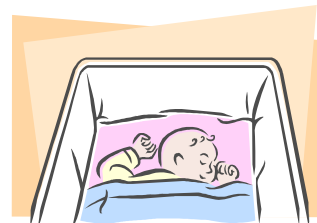


抗インフルエンザ薬は、発病してから2日以内に服用すると発熱の日数を短くすることができますが、インフルエンザ脳症を予防するというデータはありません。薬によって嘔吐や興奮状態、不眠などの副作用をおこすことがあります。

今季は主にA香港型が流行するようです。既に流行している地域があります。予防接種を早めに済ませることをおすすめします。予防接種の効果は小児では50~60%と低いので、接種をしたからといって安心せず、手洗いなど一般的な感染予防の注意も大切です。

RSウイルス感染症

RSウイルスというウイルスの感染によって、1歳以下くらいの乳児が発病します。熱はあまり出ませんが、鼻汁、咳があり、ひどくなるとゼーゼーするゼンソクのような呼吸になり、母乳やミルクの飲みも低下します。直接ウイルスに効く薬はありませんので、ゼーゼーをとる薬やタンを出しやすくする薬を使って治るのを待ちますが、呼吸が苦しいときや哺乳が十分にできないとき、細菌性の肺炎を合併したときなどは入院が必要になります。特に6か月くらいまでの乳児では、重症となることが多いので注意が必要です。



感染性胃腸炎、乳幼児嘔吐下痢症

細菌やウイルスなど多くの原因によっておきますが、冬には毎年ウイルスによる胃腸炎が流行します。原因はロタウイルス、アデノウイルス、ノロウイルスなどのウイルスで急な嘔吐で始まります。5~10回以上もはくことがあるので心配になりますが、多くの場合は数時間で嘔吐はおさまります。はいている間は飲み物はあたえず、はくのがおさまったら水分を少しずつ様子を見ながらあたえます。下痢や発熱をする場合もありますが、基本的には数日で自然になおる病気です。特効薬はありません。嘔吐が止まらないときは脱水症状になりますので、入院が必要になることもあります。ご家族内で感染が広がり、大人が発病することもあります。排便やおむつ替えをした後は、良く手を洗うことが重要です。

